

重点取組 分野	令和 2 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①児童の実態を把握し、伸ばしたい力を学校全体で共有する ②伸ばしたい力が持続可能な社会づくりにつながるよう各教科の単元を見直し、授業デザインを考える ③基礎的な学力の定着を図るとともに、学習指導要領で重視する能力・態度を育む ④国語科の重点研究に取り組む	①各学年でめざす子ども像を話し合い共有できた。②総合的な学習の計画を入学年度別に作成し育成を目指す資質・能力のつながりを考えられるようにした。③プログラミング学習の研修と研究授業を行い、学びを深めた。④初任研・2年次研で研究授業に取り組んだ。	B
豊かな心	①誰もが安心して豊かに生活できるよう、挨拶を通して互いにコミュニケーションを図る ②朝の挨拶だけでなく、学校中で挨拶が飛び交うような雰囲気作りに努める ③児童の心情に寄り添った人間関係の構築を基本に丁寧な支援を心掛ける	①②自分から進んで気持ちの良い挨拶ができる児童が増え、自然な挨拶が広まりつつある。③YPプログラムを実施し、児童の実態の把握と課題について話し合い支援に活かした。③道徳の授業の中でも児童が話し合う活動を取り入れ、相手を思いやる心情を育てた。	A
健やかな体	①感染症予防の観点を重視した健康教育の実践 ②朝の自由遊び、ロング昼休みを活用し授業外での運動遊びの実践 ③体力向上を目指した全校運動実践の企画運営	①毎日の検温と健康観察、蜜を避ける、マスクエチケットなど感染症予防を徹底した。 ②感染症予防のため今年度は朝の自由遊び、ロング昼休みは行わなかった。 ③感染症予防のため全校運動の実践は令和3年度に延期となった。	B
特別支援教育	①関係機関との連携を図り、相談体制の充実を図る ②誰もが安心、安全に豊かな学びができるように、小中ブロックで情報を共有しながらユニバーサルデザイン化を推進する	①保護者、担任だけでなく、専任、学校カウンセラー、SSWと共に教育相談や関係機関の利用ができた。特別支援教室では児童の困りに沿った学習ができた。②授業のユニバーサルデザイン化をめざして国語やプログラミング学習の授業研究に取り組んだ。	B
地域連携	①輝きづくり協議会（学校運営協議会）を毎学期開催し外部評価を生かした教育課程の編成を期す ②安全安心な学校づくりの柱の一つとして登下校の見守り活動を通した地域老人会等との連携を図る	①感染症予防のため輝きづくり協議会（学校運営協議会）は3回とも書面総会とした。委員より書面にて意見をいただき、学校運営に生かすことができた。 ②地域の老人会やボランティアと連携を図り、登下校の見守り活動を行うことができた。	B
特設クラブ	①音楽活動を通した児童の健全育成及び地域貢献活動の充実 ②持続可能なマーチングバンドクラブを目指し、保護者会との相談を密にして運営方法の改善を図る	①限られた活動内容ではあったが、児童が目標をもって努力し達成感を感じることができていた。祭りなどは、ほとんどが中止で地域への発表の場はなかった。②学校、保護者、講師との話し合いの機会をもち、来年度は管理職を顧問とすることに決定した。	B
児童安全対策	①スクールゾーン対策協議会の活用、校外委員会、保護者・地域ボランティアによる登校見守りと交通安全教室等により交通安全対策を図る ②警察署、児童相談所、区役所等、関係機関等の連携を強化し犯罪、虐待から児童を守る	①感染症予防のためスクールゾーン対策協議会は書面開催、交通安全教室は中止としたが校外委員会と保護者地域ボランティアによる見守りにより安全な登下校ができた②関係機関による児童安全対策のための職員研修を行うなど連携を強化することができた。	B
ICT教育推進 学校ピオトープ	①校内ICT環境の整備と職員のICT活用力の向上を図ることで児童の学力向上や職員負担軽減による児童と向き合う時間の確保を目指す ②本校の特色である学校ピオトープの維持管理と児童の学習活動への寄与のため地域、関係機関との連携を図る	①ICT支援員の協力のもと、パソコンルームやiPad等の整備及び、今年度から始まったプログラミング教育の計画・実施を行った。職員への研修も複数回行いICT活用能力が向上した。②教職員及び児童の委員会活動等を通して、学校ピオトープの維持管理を行ってきた。	B
いじめへの対応	①いじめ防止基本方針をもとに組織的に対応するとともに情報を共有し、全職員で全児童を指導・支援する体制を充実させ いじめ認知件数の増加を図る ②研修の実施により職員の人権感覚、カウンセリングスキルなどの力量を高める	①いじめ対応に関する研修や、アンケートを取るなど学年や学校として情報を共有し、素早く組織的に対応することができた。②新しい生活様式の下での児童の心の動きをとらえ、些細な変化を見逃さないために、学校全体で情報を共有する場を設定し、対応した。	A
人材育成・ 組織運営 (働き方改革)	①重点研やメンター研で授業を参観し合いながら、学習指導や生活指導の実践力を高める②ICTの活用や事業・業務の見直しを通して教職員の業務負担の軽減を果たす③特設スポーツクラブの廃止に伴う職員負担軽減の検証④メンタル不調を生まない、支援しあえる職員集団の醸成	①授業を参観する人数を制限するなど感染症予防に努めながら職員の実践力を高めるための授業研究会ができた。②全職員からアイデアを募り定期的に事業・業務を見直した。③特設スポーツクラブを廃止し職員負担を軽減した。④職員間で支援し合うことで職員はメンタル不調なく1年間過ごせた。	A
ブロック内 評価後の 気付き	小中一貫教育推進ブロックで予定されていた6月の本郷中学校、2月の本郷小学校での小中合同授業研究会は共に感染症予防のために来年度に延期となった。授業校は変更せず令和3年度にスライドという形で研究を継続していく。 各校で作成した自分づくりバスのデータファイルを担当者間でメールで送り合い、小中一貫教育推進ブロック内での情報の共有を図った。令和3年度に向けて内容を精査しブロック内で共通化できることを検討していく。		
学校関係者 評価	感染症予防のため、輝きづくり評議会でも本郷小学校の年間を通した具体的な取組と学校評価の結果について書面に報告した。学校評価のアンケート結果をもとに作成した資料では、その質問事項をコロナ禍における状況とし、現在の児童・保護者・職員の声をお届けたことで、学校の様子がよく分かることと評価された。また、このような状況下でも子ども達が楽しみ、頑張り、力強く進んでいることは職員の子ども達への真剣な取組だという声をいただいた。		
中期取組 目標 振り返り	感染症予防のため、まちの人とのつながりを意識した豊かな体験や、小中一貫教育推進ブロックでの活動は行うことが難しかった。しかしこのような状況下だからこそ、他者を気遣い多様性を認め合う子どもを育成することや、自分だけではなく他者の幸せにも寄りしようとする人格の基盤を育成する機会をもつことができた。教職員間でも困難な状況を連携して乗り越え、来年度以降の働き方についても話し合っって方向性を見出すことができた。		